

NPO 法人住まいのホームドクター／設計者の会  
460-0006 名古屋市中区葵1-27-32 カイフビル7階

# HD ニュース

No.11  
2013.11.15

今後の予定／於：事務局会議室

11月19日(火)18:00～ マンション大規模修繕研究会  
11月19日(火)19:00～ 研修会・福祉医療研究会  
11月21日(木)18:30～ 木造技術研究会  
12月5日(木)19:00～ 役員会  
12月17日(火)18:00～ 相談委員会  
12月17日(火)19:00～ 研修会・福祉医療研究会

## 第2回研修旅行 特集号

理事長 滝井幹夫

第2回研修旅行が成功裏に行われました。お世話を頂いた皆様に御礼を申し上げます。

本号はその特集号です。会員各位のレポートを是非ご覧下さい。

私は「東北大震災」発生以来、南海トラフ大地震に備えて防災セミナー活動を各地・団体で継続して行っている立場から、北淡震災記念公園(野島断層保存館)見学について少し述べたいと思います。

ここは平成7年に発生した「阪神・淡路大震災」による、国道43号線の倒壊再現模型や豊富な記録写真を見たり、地震の原因となった断層(国指定天然記念物野島断層)がそのまま屋内保存され、隆起、沈

降、横ずれの全ての地形変化が延々と続くのを目の当たりにして、地震エネルギーの凄まじさを改めて実感しました。

同時に、地震断層が横切る位置に建つ民家が、大規模崩壊をせず残っているのを見て、地震に強い建築物を造る事への意欲を掻き立てられました。

翻って、愛知県に於いても昭和19年の「東南海地震」翌20年の「三河地震」で大きな被害を受けた事、近い将来不可避と言われている南海トラフ大地震の、膨大な被害予想も公表されています。

建築の専門家として、「安全・安心」な家・街づくりへの責任を改めて噛み締めています。

## ヨドコウ迎賓館を訪ねて

相談委員会委員長 瀬瀬 誠

私には、かつてより見たくてもかなわない建物が二つありました。一つは投入堂で、もう一つは淀鋼迎賓館です。幸運にも研修委員会の企画で、去年は投入堂、今年に淀鋼迎賓館を見学する幸運に恵まれました。

さて、近代建築には二人の巨匠がいます。一人はフランク・ロイド・ライトで、もう一人はル・コルビュジェです。しかし、この二人は対極的な条件下で設計活動をしていました。ライトはアメリカという広大な土地の下で、自由で、且つ、自然と建物とが共生する設計活動をしていました。一方、コルビュジェは、パリという空間的制約が大きい大都市の中で、ピロティ、屋上庭園などに代表される、空間や自然との共生を創造する設計活動をしていました。

我々は(少なくとも私は)、日本というパリに似た条件下で、ライトに憧れながら、コルビュジェの物まねをおこなってきました。ですから、本能的にラ

イトに強いあこがれを、つまり、自由な建築物の創造にあこがれを持つのです。

そして、ついにライトの日本での代表作の一つに巡り合ったのです。それは、自然と共生した大胆な構想と、細部にまで気を使ったテクスチャーに驚かされるもので、建築設計者としての原点に戻ると共に、新たな創造活動に目覚めさせてくれるものでもありました。



本紙バックナンバーは当会のホームページ<http://www.sumaidoctor.or.jp>からご覧いただけます

## 安藤忠雄2題

マンション大規模修繕研究会副委員長 森 登

淡路夢舞台：本来であれば、愛するパートナーと一緒にゆっくり時間を使って広い公園内を散策するのですが、百段苑付近のみの見学になりました。思い出作りが出来るよう、そこかしこに安藤流のベストポジションが「これでもか・ウルサイ」位に設けてあります。「閑空の土砂採掘による「負の遺産」をどうやって次の世代に繋ぐのか」もとの稜線に戻すにも、又どこかで土砂を採掘しなければならないわけで、「構築物でなんとか」というところでしょうか。ですので「構築物は出来れば早いうちに緑に包まれて無くなってしまいたい・けれど罪を犯した現代人には維持経費を落として行って欲しい」という次の世代以降に向けた「罪滅ぼし・いいわけ」の構築物でした。

本福寺：表の立派にそびえる庫裡は、早く黒ずんで欲しいところです。依然来たときは墓地の裏役に徹していたのですが・・・。「こんなお墓に入りたい」見学者の中から素直な感想が漏れました。「瀬戸内を望む墓地こそが主役で他はすべて脇役」わかりやす

い安藤流でした。「御本尊は蓮池（極楽）の中＝土レベルで、土（極楽）に帰った先祖の霊を慰めてくれています」といったところでしょうか。池のアゴの塗膜防水補強クロスが破れてパッキリ口を開けていました。

破損箇所が多かったのですが、心配に反して「雨漏りはナシ」。これはすごい!!! 一番の感激でした。空気容量が多く収容人員が少ない、水・土が断熱を兼ねるといい好条件が揃っているので結露はナシ。建築・設備・構造が融合した伝統建築です。



## 神戸女学院と関西学院大学

木造技術研究会 寺島一朗

ウィリアム・メレル・ヴォーリズ的设计による神戸女学院と関西学院大学の上ヶ原キャンパスの見学をしました。明治から大正、昭和にかけて、日本全国に1000を超える洋館を建てた建築家です。英語教師として来日した彼は、キリスト教の外国伝道の活動をしていました。建築の専門教育を受けていませんが、幼いころからの夢であった建築家となると、学生に美の観念を育む学校建築も多数設計しました。

両大学ともヴォーリズ思想が一番現れているのはチャペルだと思いました。落ち着いた雰囲気、

荘厳な気持ちにさせてくれます。また、ともに設置されているパイプオルガンには音楽にも造詣の深かったヴォーリズの息吹が感じられました。日本にヴォーリズが紹介した Hammond オルガンではなくなっているのは残念でしたが満足できるものでした。

日本に帰化してまで日本を愛し、日本人に愛されたヴォーリズの建築に触れることができた有意義な時間が持てました。

委員会・研究会等報告

2013年10月

### ■相談委員会 10/15 18:00~19:00

無料電話相談の相談内容報告。電話当番 等。

### ■技術研修会 10/15 19:00~21:00

「高齢者施設の設計について(設計基準等の解説)」  
福祉医療研究会と共催。講師:片山繁行

### ■木造技術研究会 10/17 18:30~21:00

「木造住宅のための住宅性能表示」読み合わせ。  
終了後、「ヤマベの木構造」再読。

### ■研修旅行 10/20・21

兵庫・淡路島/ヨドコウ迎賓館、北淡震災記念公園、淡路夢舞台、本福寺、神戸異人館周辺、神戸女学院、関西学院大学の見学。